

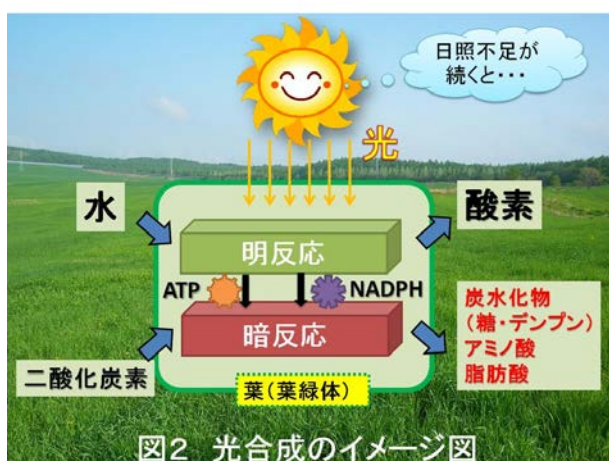
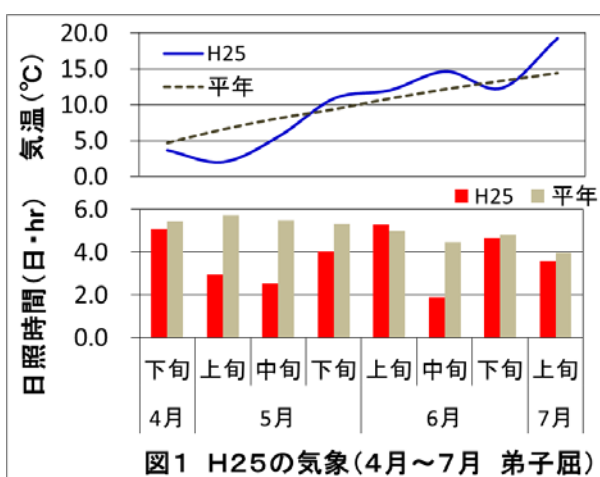
H25年産のサイレージ

昨年収穫・調製されたサイレージの品質はどうでしょうか？巡回時に農家さんから、「食べるけど乳が出ない」「いつもと同じ収穫・調製方法なのに発酵品質が悪い」などのお話を耳にします。

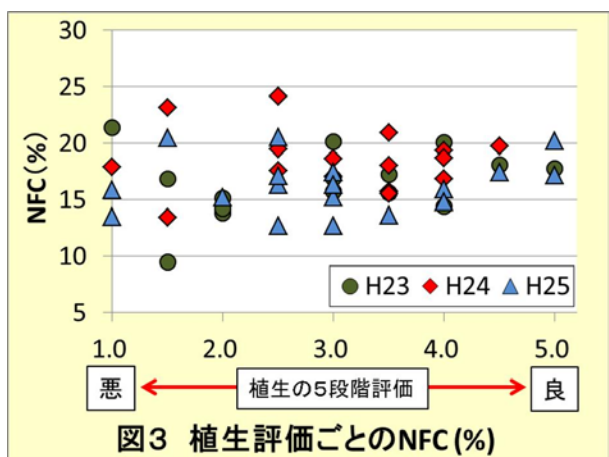
今回は、昨年の気象条件からサイレージ品質を予測し、利用方法を検討します。

品質不良の原因は日照不足と施肥タイミングの遅れ！

図1は、昨年の気温と日照



時間です。牧草生育の傾向は、5月の低温・日照不足で生育停滞+施肥の遅れ(一部地域)肥料が吸えない。6月は気温上昇。しかし日照不足は徒長で草丈伸長。光合成不足で糖の生成やタンパク合成が不十分。収穫時期に生育が一気に進み、水分が高い状態。日照不足は、光合成による炭水化物の合成や吸収した窒素のアミノ酸合成を低下させます(図2)。その結果、サイレージの発酵に必要な糖が足りなく、乳酸発酵が上手くい



かないことや、タンパク質などの栄養成分が低くなることにつながります。実際に、炭水化物の量を生草分析値の※NFCを指標に確認しました。図3は植生が良い草地から悪い草地を5段階で評価し、それぞれのNFCを比較したグラフです。植生にかかわらず過去2年と比較してNFCが低い傾向にありました。しかし、植生が良いほどNFCは高く、良好な植生の維持は、天候不良時の品質低下を軽減することがわかりました。

※NFCとは
非セニ性の炭水化物区分。
糖・デンプン・ペクチン・有機酸を含む。ルーメン微生物のエネルギー源として重要。

品質不良の傾向がある昨年のサイレージの活用について、以下のことに留意しましょう。

・粗飼料を分析して成分を
チェック

・バルク乳成分のMUNを
モニターして、MUNの安
定化を図る

・発酵品質が悪ければ、併
給粗飼料を検討

(例)飼料用とうもろこし、
良質ラップや乾草を併給

・粗飼料が低栄養の場合、
濃厚飼料給与方法を検討
(例)ビートパルプの増給、
大麦や圧ペンコーンの増給
でエネルギーを補う
など